

一生涯勉強を続けることの大切さを考える

- 福祉の担い手になるために必要なこととは -

1. はじめに

先週の11日に、東京都の離島の1つである新島に出掛けました。新島にある新島中学校から出張授業の依頼を受け、総合的な学習の時間に、中学3年生21名を前に話をしました。依頼された内容は、「福祉について話してほしい」ということでしたので、高校に進学したり社会に出るに当たって心得ておいた方がよいことと絡めて話をさせていただきました。

2. 福祉の担い手となる方々に望むこと

(1) 私は、足利市にある特別養護老人ホーム「清明苑」の理事をさせていただいています。そこで、清明苑ではどのような介護活動や福祉活動をしているのか紹介しました。福祉には、子供の福祉、母子福祉、児童福祉、ニート・フリーターへの福祉、仕事をもちながら働く人たちへの福祉、高齢者(65歳以上)の福祉などがあります。それらの福祉の担い手には、どのようにしてもらったらよいのかお話をしました。

(2) 福祉の担い手になるには、中学校、高校で勉強してから専門学校あるいは短期大学・大学に進んで、さらに専門の勉強をする必要があります。もっと勉強する人は、大学院で勉強してから福祉の仕事に係わります。その職業について理解するためには、勤め始めてから10~15年くらいはかかります。ですから、35歳から40歳くらいまではとにかく勉強し続けてほしいと、私は希望しています。そして、福祉の担い手として第一線で活躍していただきたいと思っています。70歳くらいまでは現役で働き、70~105歳くらいまでは身体の許す限りゆっくり福祉の活動に参加していただく。学校を出てから10年くらい、つまり35歳くらいまできちんと勉強をすると、70歳までよい仕事ができます。70歳を過ぎても、105歳までの35年間はまた違う形で仕事に就くことができます。このようにして、一生続けて福祉の担い手になって下さい。

(3) 足利市に居住されていた書家の相田みつをさんのことばに、「一生勉強、一生青春」があります。私はこのことばが大好きで、新島中学校でも紹介させていただきました。一生涯勉強を続けながら、人生を送っていただきたいと思います。

3. おわりに

(1) 新島で驚いたことがあります。それは、島内のどこに行ってもゴミが1つも落ちていないということです。村民の方が、ゴミが落ちていると拾っているからです。新島は、すばらしくきれいな島です。

(2) 話は変わりますが、足利銀行の受皿が決定しました。野村グループになり再出発をしますが、以下に挙げることをお願いしたいと思います。

友愛義団というすばらし歴史があるので、足利銀行という名前だけは残していただきたい。

これまでの取引先に融資を続けていただきたい。

2100名の行員が、池田頭取と共に頑張ってきた。歯を食いしばって再建に励んできた。これら行員を、一人も解雇しないでいただきたい。

もう一度上場していただきたい。

自主的な経営を目指していただきたい。

(3)私は、マニー株式会社の社外取締役も仰せ付かっています。マニー株式会社には、社内だけでなく、社外からの取締役も4名います。弁護士の方、会計士の方、花王で洗濯用洗剤アタックを開発した村田さん、経営者の立場にある私、林の4名です。

(4)足利銀行も、可能であれば、委員会設置会社にしてガバナンスの強化を図っていただき、透明性を高めていただきたいと思います。国際競争力のある独自性を持った金融機関になってもらいたい、経済の成長・県民生活の向上を引っばる金融機関になってほしい、そのために外部の人材をどんどん導入していただきたい、2100名の行員の方々の能力を強化していただきたいと希望いたします。